



# 三ツ境小だより 2月号

令和4年1月21日  
横浜市立三ツ境小学校  
学校長 遠山 松雄



## 「習うより慣れよ」

副校長 木村 恵美子

1月8日土曜日、三ツ境地区の青少年指導員、スポーツ推進委員の主催で、新春レクリエーション大会が行われました。昨年は、緊急事態宣言下で中止せざるを得ない状況でしたが、今年は、感染拡大防止対策に努めて、実施することができました。青少年指導員、スポーツ推進委員の皆様には、本校の子どもたちのためにご尽力くださったことに厚く感謝申し上げます。冬本番の寒い日でしたが、参加した子どもたちは、34名。体育館で福笑いと瀬谷かるた、校庭で長縄跳びとグラウンドゴルフを楽しみました。



子どもたちにとっては、特にグラウンドゴルフが楽しかったようです。「子どもは、どんどん上手になるわね・・・」ご指導くださった委員の方がつぶやいていたのが耳に入りました。確かに、最初は、クラブの長さを持って余し、ゴルフでいう「ダフる」(ボールの手前の地面を打ってしまう)「チョロ」(クラブがボールの頭をかすめて、ほんの少ししか動かない)が見られていたのですが、何回も打つうちに、コンといい音がしてまっすぐに長く転がるようになっていったのです。まさに、「習うより慣れよ」です。

12月の学習発表会でも、各学年、堂々と発表する姿が見られました。発表会に向けて、グループ内で練習、クラスで練習、他のクラスに見てもらう、他の学年に見てもらう・・・など何度も練習を繰り返していました。発表に慣れたところで、発表当日を迎えていたわけです。

「習うより慣れよ」ということわざを辞書で引くと、「物事は、人に教わるよりも自分で直接体験してゆくほうが身につくということ」(広辞苑)とあります。人から聞いたり、本で読んだりしたことを頭で理解しても、実際にやってみると上手いかず、何度もやってみて、コツをつかんだり、その場にに応じて臨機応変な対応を身につけたりするものです。やはり、学びは、体験を伴う必要があることを強く感じます。また、何度もやってみるということは、心理的に安心して物事に臨めるということにもつながります。不安→失敗→自信喪失→「また失敗したらどうしよう」の負のスパイラルからは、成長を望むのは難しいことでしょう。安心して物事に取り組むことができる物的・人的環境を整えることも大切だといえます。

子どもたちの学びや成長にかかわる私たちは、最低限教えるべきことはきちんと伝えていかなければいけません。ただ教えて終わるだけでなく、やってみる機会をしっかりと設け、安心できる声掛けや寄り添いができる大人でありたいと思っています。

これからも、子どもたちが安心して過ごせる学校づくりに向けて、教職員一同力を尽くしていきます。今年も地域の皆様、保護者の皆様のご支援ご協力を賜りたくお願い申し上げます。

新型コロナウイルス感染症は、デルタ株からオミクロン株へと急速に置き換わり、全国的に感染が拡大している状況です。本校でもこれまで通り感染対策を取りながら教育活動を続けてまいりますが、今後も状況によっては、行事の急な変更が必要な場面が出てくる可能性があることをご承知おきください。また、保護者の皆様には、継続して口イロノート・スクールによる健康観察へのご協力をお願いいたします。

## **専任 吉田より**

6年生は、卒業式まで残り37日。在校生は、残り41日となりました。日々の学校生活を送る中で、たくさんの出来事があったことと思います。お子様は、家で学校の様子を話すでしょうか。個人の性格や時間的余裕など、家庭により様々な理由はあるかと思いますが、保護者のみな様には、ぜひ、お子様との対話の時間を意識して設定していただけたらと思います。日々の頑張りを認められ、励まされ、支えてもらえるという安心感が、子どもたちの成長に大きくかかわることだと考えます。学校では、自分づくりパスポート等を活用し、目標に向かって努力し、ふり返り、次の活動につなげることを意識しています。各種アンケートを活用し、年間に複数回、一人ひとりと面談も行っています。日々の授業を通したかかわりはもちろんですが、長期の目標と合わせて、学級担任を中心に支援していきます。

家庭でお子様と話している中で、時には心配なことも話題に上がることと思います。「また今度・・・。」と流さずに、早期対応を心がけ、子どもたちの安心につなげていきたいと考えます。その際は遠慮なさらずに、担任や学年職員、専任等にご連絡ください。

すべての子どもたちが、安全に、安心して学校生活を送ることができるよう、全職員の力を合わせていきたいと思っています。